

## 第2回浄水場説明会に参加しましょう！

1回目の説明会（6月18日）では、沖縄本島との格差をなくす水道広域化に、参加者はみな、「ありがたい事業」だと賛同しましたが、建設予定地の選定や飲み水が増えるわけではないことについては、疑問や意見が多く出されました。そこで、もう少し時間をかけて再検討しようということになり、7月19日に2回目の説明会が開催されます。前回の説明会の内容やその後の動きなどについて、下記にまとめました。生活にかかせない大切な水のことで、開発工事は、場所を間違えれば島の宝である自然や景観を損ないます。住民みんなで十分に協議し、慎重に判断して、よりよい浄水場建設が行われるよう、ぜひ参加しましょう。

### 座間味浄水場の建設に関する2回目の説明会

平成30年7月19日（木）午後6時30分～ 離島振興総合センターにて

（説明会に関する問い合わせ先：沖縄県企業局 建設課 離島整備班（仲里・玉置）TEL：866-2814）

なお、このお知らせは、座間味島在住のみなさんに届けさせていただいています。参考資料として、阿真ビーチ自然観察ガイドも同封していますので、ご笑納ください。もし近隣の方で、届いていないという方が居られましたら、高松（阿真区150番地・TEL：090-6869-4213）までご一報ください。

差出人

自然写真家ユニットうみまーる  
高松明日香  
井上慎也

### 利点と問題点① より安全な質の高い水になります！（飲み水が増えるわけではないです）

新しい浄水場ができれば、最新のろ過装置で、より安全な質の高い水を造れるようになります。そのため、1日に浄水を造れる能力は、627 m<sup>3</sup>から370 m<sup>3</sup>に落ちるということです。飲み水が増えるわけではないので、長年、渴水に苦しみ、断水を経験している住民にとっては、飲み水の「質」より「量」の確保を求める提案や疑問が出ました。県の説明では、新浄水場完成後の渴水への対応は「可搬型の海水淡水化装置」を持って来て随時対応すること。住民からは、それだったら「新しい浄水場建設よりも先に、今ある海水淡水化施設を増強して飲み水を増やすべきでは？水をより綺麗にするための新しい浄水場の建設は、その後からでもいいのでは？」という提案が出され、県側は検討事項の1つにすると答えました。ただ、海水淡水化施設の排水の海への影響を心配する声もあり、慎重に検討する必要があります。

### 問題点② 事業は賛成！でも、阿真ビーチ周辺の自然や景観の損失が心配…

浄水場予定地がすでに「阿真キャンプ場」で進められていることに、多くの疑問や意見が出ました。島の中でも自然が豊かで、観光客や住民の思いも強い場所。「立地条件や法令、取得しやすい土地というだけで決めてほしくない」「島にとって自然や景観は大事な観光資源、国内外から観光客が訪れる。島の自然は今や世界の宝。子や孫に残したい。」という思いや「排水の水質は本当に大丈夫なのか」「観光施設のキャンプ場に浄水場、しかもダムから遠く離れた場所に、違和感しかない」という自然や景観への影響を心配する声も上がりました。予定地には、鳥や蝶などの貴重な生きものが生息し、排水が予定される川の河口は、常時堆積している砂が絶妙な自然のろ過装置となって富栄養化した川の水を浄化し、ビーチのウミガメや内海のサンゴを育んでいる、島の自然にとって非常に重要な場所です。もし、そこに浄水場が建設されれば、ケラマブルーの海も、ウミガメやサンゴも、島ならではの素朴な原風景も失ってしまう可能性があるのです。飲み水が増えるわけではない、質を高めるだけの浄水場のために失う代償としては、大きすぎる島の宝です。

【詳しくは → 阿真ビーチ自然観察ガイドP.47～48】

## 課題 自然や景観、島の伝統に配慮した、新たな候補地を探すことになりました

他の候補地はないのかと、さまざまな意見が出ました。「座間味港西側のテニスコート場」は港湾課、「ダム公園」は河川課から許可が下りず、ダム下流の「郵便局裏」は地権者がたくさんいて土地の取得が困難との答え。阿真キャンプ場の予定地は広大で地権者が民間1人だから取得しやすいというような、そんな安易な理由で貴重な自然を失うのは納得できないという声も。「もっと候補地探しや交渉に努力してほしい、住民も協力するから」と次々に声が上がりました。できるだけ、自然や景観を損なわず、浄水場建設に適した土地は、どこかないか、県と住民が一緒になって探すことになりました。県も「みなさんの思いを知ることができて良かった。強行はしない。住民の意見を聞きながら進める」と言ってくださり、再検討する時間をくださいました。島の宝を失わず、よりよい事業をしていただけるよう、みんなで協力して実現させましょう！

## 現在進行中 住民が探した最適地「ダム下流域」を提案中（住民の皆さんの後押しが必要です）

有志で力を合わせ、島内あちこちを見て回ったりいろんな人の話を聞きながら、少しずつ新たな候補地を探しました。その中で得た情報では、阿真キャンプ場の予定地のすぐそばに、海の神様「ウサチリュウグウ」の拝所があり、排水が予定されている河口の先にある黒岩「ウフグシ」は自然の神様が祀られていて「アマシルグスク」「ヤカビ」とともに昔から神聖な場所として大事にされてきたことも分かりました。住民からは、「浄水場はダムの水を浄水して、各家庭に届けるのだから、ダムと集落の間が立地としても最適はず」との声が多く、「ダム下流域」を重点的に探したところ、まとまった土地が取得できそうな場所が見つかったのです！さらに、その近くには、水の神様「ナガマシ」宮が鎮座していて、昔からの信仰からすれば、水道施設を造るのに最適な理にかなった場所だという話も聞かれました。その後、地権者との交渉を進めて、建設に必要な面積の土地が確保できそうな見通しが立ったので、7月17日に県企業局に提案しました。しかし、企業局は、「阿真キャンプ場の予定地で問題ないと考えており、配慮に万全を尽くして阿真キャンプ場に建設する」とのことでした。このままでは、阿真キャンプ場に浄水場が造られてしまいます。住民にとって、本当にそこでいいのでしょうか。自然保護や景観保全だけでなく、島で古くから大事にされてきた想いや歴史も尊重し、大切に受け継いでいける形で、よりよい浄水場を建設してもらえるよう、今一度、建設地について、みんなで考えてみませんか？

## 座間味の未来のために 「ダム下流域」の有効活用を！（住民みんなで一緒に考えましょう）

県に提案した新たな候補地も含め、座間味ダムと座間味郵便局の間のダム下流域には、7500坪もの広大な平地が広がっています。土地がなくて困っている座間味集落のすぐ近くに、なぜ活用されていない広大な土地があるのでしょうか。今回、地権者の方たちに話を伺う中で、その理由も分かってきました。話は、30年以上前にさかのぼります。ここは昔、田んぼや畑でした。地権者の話では、座間味ダム建設の県の事業が持ち上がった時、「ダムを掘った際の残土をダム下流域に置かせてほしい。ダムの完成後には、きちんと区画整理をし、地産地消と観光が両立するような一帯に整備するから」と説明を受けて、残土受け入れに承諾したということなのですが、1986年に工事が始まって1991年にダムが完成した後、行政に何度要望しても、整備は行われなかったそうです。一度残土が置かれて、重機が入ってしまった土地を、個人の力で元の豊かな農地に回復させるのは難しく、かといって地目が農地のため、家や店を建てることもできず、そのうち、このあたり一帯の土地はややこしいというレッテルを貼られ、まったく活用されないままの状態が続いてきたのです。

しかし、今回、住民有志が話したところ、「島の未来のためなら」と前向きな回答をくださる地権者が多かったです。行政が誠意をもって対応すれば、ダム下流域の有効活用に道が開けると思います。まずは、浄水場をここに建設してもらいましょう。地権者も高齢な方が多く、時を逃しては、権利が子や孫などに引き継がれて権利者が増えたり、不明になったりして、ますます土地の取得は困難になります。

ダム下流域の有効活用ができれば、多くの住民が望んでいる村営住宅や分譲住宅などの建設も可能になるかもしれません。診療所や学校にも近いとても良い場所です。広大なのでゾーン分けして、農業振興と水環境、住環境の整備が共存する素敵な場所にできるかもしれません。公共工事はそれぞれ独立しているようで、実はそれぞれに影響し合っています。少しでも良い公共工事をしてもらうことが、次のまた良い公共工事につながるのです。「浄水場建設は自分には関係ない」と思っている方でも、ぜひ、関心を持ってください。

30年前、県の座間味ダム建設をきっかけに、7500坪もの土地が活用されない状況になってしまいました。今回、県の新たな浄水場建設によって、これらの土地の有効活用に道を開いてもらいましょう。